

A Study on the Introduction and Development process of the Steel structure building in Japan : On the Design and Construction of Factory building in The Imperial Steel Works, Japan (The Japanese Government-controlled Yawata Steel Works) from the Period of the Foundation to the early Showa era

開田, 一博
北九州産業技術保存継承センター

<https://doi.org/10.15017/14001>

出版情報 : 九州大学, 2008, 博士 (芸術工学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

あとがき

わが国における鉄骨構造設計・建設技術の発展により、今日では超高層建築や大空間を持つ建築の建設は、特に目新しさを感じることもしなくなり、ましてや工場建築が話題になることは少ない。

しかしわが国の鉄骨構造建築の発展を考えると、明治期に導入された鉄骨構造の工場建築とその後の建設経緯を抜きにしては語ることは出来ない。

筆者は新日本製鐵株式会社八幡製鐵所で約 30 年間、主に工場建築の設計、建設、維持管理等に従事し、その中で最新の設計技術と高品質の鋼材を駆使して、重荷重や高温にも耐えるうる高層かつ大スパンの工場建築を当然のごとく設計、建設してきた。しかし、その傍らで、キングポストトラスやフィンクトラスの小屋組みを持つ、古いリベット構造から成る多くの既存工場建築の存在を、その改造などを通じて、従来から認識していた。

おりしも昭和 58 年、日本鋼構造協会(JSSC)より、「れい明期鋼構造物調査」として、八幡製鐵所に存在する明治、大正期に建設された鋼構造物の調査協力要請があり、本格的な調査を進める契機となった。

この「れい明期鋼構造物調査」を通じて、操業開始以来今日まで、八幡製鐵所では工場建築は継続して建設されてきていることから、一連の活動を系統的にまとめることは、わが国における鉄骨構造建築の発展過程を明確にすることに他ならないことを認識した。

その一方で、時代の流れに従って古い工場建築が順次、解体される趨勢にあり、設計図などの資料も散逸する傾向にある。反面、近年、近代化遺産として明治、大正期の工場建築が注目される傾向にあり、その流れの一環としても、調査研究を進め、その事実を後年に伝えることは意義深いことであると考えた。

以上の経緯から研究を進めた結果、日本建築学会計画系論文集に以下のような論文をまとめて投稿することができた。

1. 官営八幡製鐵所の創設期における鉄骨構造建築の導入
(日本における鉄骨構造建築の導入と発展過程に関する研究 その1)
日本建築学会計画系論文集 No.618, pp.129 - 134 (平成 19 年 8 月)
2. 官営八幡製鐵所における日本人最初の設計施工による鉄骨構造建築
(日本における鉄骨構造建築の導入と発展過程に関する研究 その2)
日本建築学会計画系論文集 No.628, pp.1349-1354 (平成 20 年 6 月)
3. 大正期から昭和初期における官営八幡製鐵所の工場建築と設計者について
(日本における鉄骨構造建築の導入と発展過程に関する研究 その3)
日本建築学会計画系論文集 No.635 (平成 21 年 1 月)

本論文は上記の日本建築学会計画系論文集に掲載された 3 つの論文をもとに、それに加筆してまとめたものである。